

当院で承認された未承認・適応外医薬品等について

当院では、以下の未承認・適応外医薬品を用いた診療を当院の倫理委員会、院内規定に基づき承認いたしました。対象となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合でも、診療において不利益を被ることはありません。本診療に同意できない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

実施内容	経口摂取不能な成人患者の解熱、鎮痛に対してのカロナール坐薬の使用
実施責任者	愛和病院 病院長 山田 泰史
対象者	当院で治療を受ける経口摂取不能な成人患者で、医師が解熱、鎮痛に対してアセトアミノフェン坐薬投与が必要と判断した患者
承認日	2024/04/08
対象期間	承認後から永続的に使用
概要	<p>【目的・意義】</p> <p>発熱時や疼痛時には広くアセトアミノフェン製剤が使用されております。アセトアミノフェン製剤は経口薬、注射薬、坐薬と種別がありますが、アセトアミノフェン坐薬であるカロナール坐薬は小児領域における解熱、鎮痛のみでの使用が限られており、大人に対する投与については添付文書上では適応外とされております。一方、国内の日本医師会が監修している新版がん緩和ケアガイドブックでは、経口摂取不能の場合に対して、カロナール坐薬の投与が使用例として記載されており、また、海外の臨床報告等でも効果の報告があると同時に、実際に臨床現場で処方されることが多数あります。</p> <p>上記理由により、当院では医師が成人経口摂取不能な患者の解熱、鎮痛に対してアセトアミノフェン坐薬投与が必要と判断した患者に限り、その使用を認めます。</p> <p>【想定される不利益と対策】</p> <p>投与により、ショックやアナフィラキシー、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症、劇症肝炎、肝機能障害、喘息発作の誘発、顆粒球減少症、間質性肺炎、間質性腎炎、急性腎障害、薬剤性過敏症症候群、発疹、チアノーゼ、血小板減少、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、軟便、便意等の副作用が認められる場合があります。副作用が疑われる場合は、速やかに投与を中止し、対処療法に努めます。</p>
お問い合わせ先	愛和病院 薬剤部 代表 026-336-3863